

番号	意見	当日の回答	区役所の対応・考え方	担当課
1	予算案を見て、どこの数字がどこの数字に当てはまるか分かりづらい。予算案は3年度の決算があった上での話か。だいたいこれくらいが必要ということで予算額まで出ているのか。また、それに対しての収入はどこから下りているのか。	3年度の決算は秋に確定する。4年度予算は3年度の決算見込みを踏まえながら予算要求している。 全体予算の主な増要素は交流会館建設工事開始に伴う工事費が大きく増えている。 通常の予算は税が財源だが、交流会館は区画整理事業でできた基金が財源となっている。	同左	保健福祉課
2	追加資料にもあげている、早期の気づき・早期に心理士や専門機関につながる事が重要。虐待にいたる前に、ということや子どもに発達や何らかの課題を抱えている場合に、早めに気づいて周りが対応をしていけるということはその後のお子さんの生きづらさを防ぐためにも重要なので取り組みをぜひ進めてほしい。その際親や周りに課題を抱えている方が多く、世帯での支援が必要というケースが多くみられるので、相談支援機関との連携、気づきのためには学校での気づきが非常に重要、教育機関を含めたところでの連携をすすめてほしい。	広く問題が深刻化・重篤化する前にできるだけ早く区役所に相談いただいて、区役所のスタッフ（心理士、18歳までの子どもの子育ての悩み等全般的にお話を伺う家庭児童相談員、保育士、保健師等）に気軽に相談いただきたい。 本日の心理相談の紹介も含め広報を実施しているが、委員の皆様からも悩んでいる家庭に区役所に行けば相談できるということを伝えていただきたい。 学校での気づきが重要ということについて、区役所では18歳未満のお子さんを対象としているが、小中高に在籍している方がほとんどであり、子どもたちは1日のほとんどを学校で過ごしているので、学校で気になる子どもや家庭の様子に気づいていただき、区役所につないでいただくことが重要。 学校で発見した課題を抱えるこどもと子育て世帯を区役所の福祉制度につないで学校と行政と地域で連携して支援していく取組みであるこどもサポートネット事業は、H30年度から開始して4年目となり、課題解決が困難なケースもあるが、本事業を通じて学校との連携をさらに強化していく。	同左	保健福祉課
3	不登校の子のアウトリーチ型支援事業とは？モデル校をふやす予定？そこがあるからこそ地域でも見守れているところがあり、増やす予定があるのかお聞かせいただきたい	不登校の子のアウトリーチ型支援事業所管の教育担当からは、ボランティアの方に登校支援していただく事業で今後、不登校の状況に応じて事業の拡充を検討する必要があると聞いている。 子育て相談での統計では、不登校が倍以上に増えておりコロナ禍による休校等が要因の1つと考えている。 不登校は長引くと改善は難しくなるため、早い段階での気づきと改善を図っていく必要がある。 こどもサポートネット事業や教育担当とも連携しながら進めていきたいと考えている。	同左	保健福祉課
4	不登校にはかなりアプローチしているのか。	不登校は一定以上休むと、学校から家庭訪問している。 支援の取り組みとしてボランティア等にかかわっていただく不登校アウトリーチ事業や、区役所の専門スタッフが相談を伺いながら、学校の教室には行けませんが、別室登校をする等、家に閉じこもるのではなく、子どもが安心して過ごせる場所が様々な形であることが重要であり、そのような居場所につなぐといった取組みも進めている。	同左	保健福祉課
5	コロナについて、今現在は症状がある人や濃厚接触者でPCR検査するなら、どこかの医療機関へ問い合わせ受診してもらうのか。	症状がある方、濃厚接触者も症状が出たら、医療機関へ電話をして受診してくださいと伝えている。無症状で、検査希望の方は大阪府の無料検査等をご自分で対応いただいている。	同左	保健福祉課